

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医事コンピュータ I Computer Medical Practice I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(医療機関における病歴管理)	メディカルクラークユニットを履修している学生のみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
コンピュータリテラシー I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
メディカルクラークユニットの科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山崎 雅子	講義棟1階 講師室	水 (授業・会議時間以外)		授業中に指示します
授業の概要				
DPCに欠かせないICDコーディングの基礎をもとに、ICDコーディング—10による疾病分類、処置を中心にPCの操作を学習する。				
授業の目標				
①ICD-10による処置に関するコーディングの知識を習得し、疾病分類ができるようになる。 ②DPD算定によるICDコーディングの必要性を説明できるようになる。 ③病名以外の記載内容を理解し分類できるようになる。				
授業の方法				
PC操作を学習しながら、様々な疾患及び関連疾患の講義・演習問題を繰り返し、ICDコーディングの基礎を習得する。				
学習の成果 (学習成果)				
①世界保健機構による疾病分類ができる。 ②ICDコーディング検定3級に合格できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・ICDコーディングとは P C 操作について			
第2回目	コードの構成とコーディングの手順			
第3回目	コーディングの手順と例題			
第4回目	注釈・略語・記号の意味、相互参照・関連用語について			
第5回目	単一・複合・ダブル・多発病態コードについて			
第6回目	任意的追加コード、続発・後遺症コードについて			

第7回目	新生物コード化	
第8回目	産科関連コード	
第9回目	新生児関連コード化	
第10回目	症例に基づくコーディング (症例1～10)	
第11回目	症例に基づくコーディング (症例11～25)	
第12回目	症例に基づくコーディング (症例26～40)	
第13回目	外因コードについて	
第14回目	症例に基づくコーディング (応用①) 試験	
第15回目	症例に基づくコーディング (応用②)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	10% 授業に集中して取り込むことができる。
	レポート	
	調査報告書	
	小テスト	20% 授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
	試験	50% 期末試験を実施し、授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
	発表内容 (態度含む)	
	その他	20% 検定試験の結果により加点する。
教科書と参考図書		
ICDコーディング基本テキスト (日本コーディングセンター)		
履修上の留意点・ルール		
演習問題が中心となる。PC操作がスムーズにできるよう基本を理解すること。ICDコーディング検定を受験する場合は必ず履修すること。		